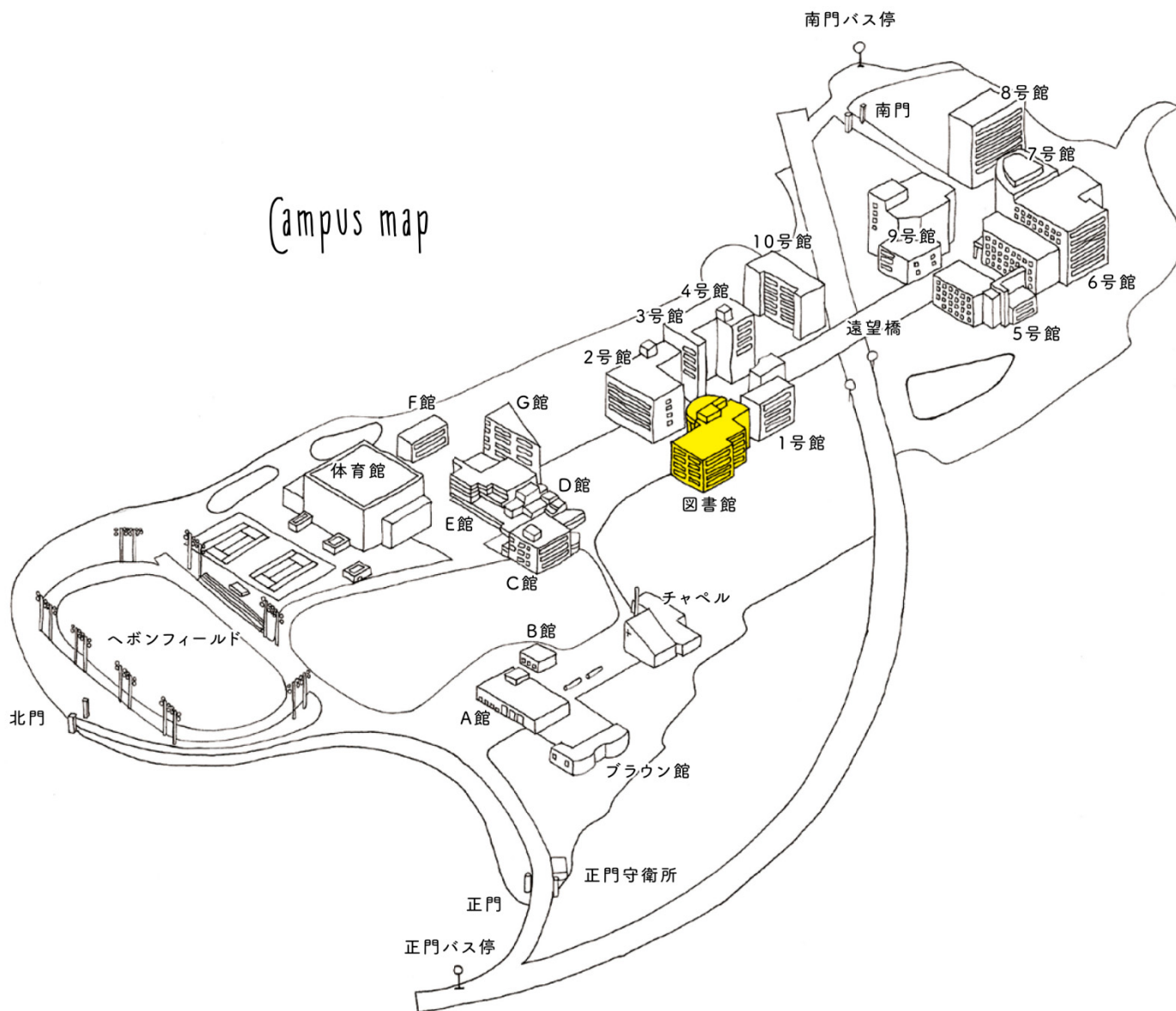


配置図



整備概要

施設名称	明治学院大学 横浜校舎図書館		
利用対象	国際学部 1~4年生 および、全学部 1~2年生		
設置年度(工期)	2015年度(2014年8月~2015年3月)		
整備手法	改修	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根
階数	地下2階~地上2階		
のべ床面積	3,874.88㎡		
設計	株式会社教育施設研究所		
施工	大成建設株式会社(建築、内装)		

整備内容

・整備のポイント

整備に当たって重視したのが、大学での学びを「可視化」することである。これにより学生たちが相互に刺激しあって、自ら成長できる場とした。また、アクティブラーニングの事前・事後学習が可能な空間にすること、さらに一人で集中して学べる環境を、従来型の「サイレントエリア」だけでなく「サードプレイス」としても意識して設け、リラックスと集中が共存できるアカデミックな空間としても整備した。さらに、図書館にしかない機能として図書利用環境の整備を重視した。全学の1・2年生全員が通う図書館として、高校までの読書体験・学習体験を再確認し習慣化させ、大学での専門的な学びにつなげられるよう、導入教育資料の配置場所やグルーピングに配慮した。

ゾーニングを再考して入口部の1階をアクティブ・導入の場所と位置づけ、2階・地下1階、地下2階書架エリアには、さらに深く掘り下げるための資料を配置して学生自らが知的好奇心を原動力に、図書館内を自由に回遊できるよう動線を工夫した。

1階：みんなで刺激し合える楽しい空間

-資料の段階的な配置と人的サポート

1階は空間的につながったオープンなスペースとなっている。学生に「図書館」に興味を持って一歩足を踏み入れてもらうよう、入口の「りぶら」にはアート、スポーツ、カルチャー、ライフスタイルなどの、学生生活になじみのある雑誌を配置。また学生生活に必要なノートPCをIC学生証でタッチして借りられる「PCセルフ貸出機」を設置した。さらに、1・2年生などで大学での学修に戸惑う学生が気軽に大学院生に相談できる「学習何でも相談デスク」を開設している。また、学生スタッフがホワイトボードにその日の由来や関連本を紹介展示する「今日は何の日？」コーナーや、利用者が新図書館の感想を書き込めるコーナーを用意し、書き込まれた感想には図書館側からコメントを返すという双方向のアナログコミュニケーションを実現する場も設け、好評である。

1階のほぼ全面を占めているのは、グループワークが可能でみんなで刺激し合える空間としての「アクティブcommons」で、その入口部分の開放的な吹き抜けロビー「メインホール」には存在感のある書架を設けてある。ここでは、人類の知的遺産である名著を配架し、書物の奥深さを印象付けている。フロアには学生のニーズの多い資料をグルーピングし、手に取りやすく「コーナー」に分けて配置している。

- *「高校生から大学生へ」：日本語の多読資料として文庫本などを集め、大学生としての読解力と文章作成能力の向上を目指す
- *「語学書コーナー」：語学学習のための和洋図書
- *「学習サポートコーナー」：レポートや卒論、プレゼンテーションなど大学の学習法に関する資料
- *「マガジンスクエア」：大学での学びに必要な雑誌

「アクティブcommons」には、大小のホワイトボード、パソコン画面を投影できるプロジェクタ、可動式什器が備えられ、アクティブな活動を可能にしている。天井部分に設置されているフレームのプラットフォームは、今後想定される教育スタイルの変化に対応し設備・機能を柔軟に追加変更可能な構造体となっている。

さらに長時間利用を想定し、館内には新たに軽食やコーヒーの自動販売機を設置し、集中の合間のリラックスや新たな発想やアイデアを生む一助とした。軽食可能なエリアは館内の一部に限定している。廊下壁面には「ミニギャラリー」を設け、ゼミやサークルの活動の発表の場として教員や学生のニーズに応えられるようにしている。

1階には人的サポートを提供する4つのカウンター*を配置している。

- *インフォメーション：入館ゲート横にあり、学生対応の他学外者対応も行う
- *サービスカウンター：貸出・返却がメイン。
- *レファレンスカウンター：情報検索、資料収集の相談など。
- *ITカウンター：学生スタッフがPC、プリンタ、無線LANなどの質問に対応している。

2階：集中して学習、本の森に迷い込んで新発見

2階には6つの特徴ある空間（サイレントエリア、メディアラボ、研究者ブース、ブックスケープ、アクティブラボ、パーチ）があり、それぞれの区切りを透明な間仕切りすることで、学習活動の可視化を実現した。

「サイレントエリア」「メディアラボ」「研究者ブース」は集中して学習できる図書館空間である。「アクティブラボ」は大人数でも少人数でも自在な組み合わせでアクティブな作業のできる可動式のテーブル付きチェアとモニタを備えている。「ブックスケープ」は従来型の書架ではなく、本の森に迷い込んで思いがけない本とも出会うという意図を込めた配置になっている。さらに、タッチパネル型の情報端末「BOOK コンシエールおススメん」は一冊の本のバーコードから関連本を発見できるもので、インターフェースをイラストや書影の画像で構成し、インタラクティブな仕掛けで直感的に操作ができる。特定の本からワンタッチで複数の関連本の情報に接することができ、関心事項について複数の資料にあたる大切さを理解できるツールとして学生に有用である。「ブックスケープ」から「サイレントエリア」への途中の「パーチ」では、TAによる学習相談、レポート執筆支援を実施しており、2階部分の人的支援の拠点としても機能している。2階の一部にも軽飲食可能なエリアを設けている。

・運営・管理

運用サービスの継続的改善

利用者サポート・運用管理とも、業務の中心は図書館職員が担っている。職員は10年ほど前から利用者からの質問を記録・集計・分析して日常のサービスにフィードバックしている。リニューアル後は計画のPDCAサイクルも意識し、スタッフ共通の目標を立て、振り返りと必要な軌道修正を行うように心がけている。同時に、利用学生の中からスタッフを募り、学生目線のサービスを再構築して、図書館をより活性化させるための新たな仕掛けづくりに学生も職員と共に参画している。

従来型の図書館から路線変更した新たな環境をいかに利用者に活用してもらうかがポイントの一つであり、リニューアルオープン前にワークショップを行い、運用・サービスについて目指す図書館イメージを全スタッフが共有した。また、「学生にとっての理想の図書館」を目指し、学生スタッフも同様のワークショップに参加することで、職員とともに新しい図書館イメージを共有した。学生スタッフは、その体験を活かして学生向けの図書館活用企画を実施している。この企画では、学生から職員に提案し、職員は学生に適宜示唆や助言を行う。このプロセスを通し学生ユーザーの意識把握やニーズへのフィードバックを日常的に実施している。

学生には、「大学図書館で何ができるのか」を伝え続ける広報が重要である。そのため、新たな広報メディアとして「図書館専用サイネージ」を導入した。それまで掲示や、図書館ウェブサイト、学生ポータルサイトでの文字ベースで展開していた広報を、リニューアル後には画像や動画を駆使して観覧ができるようになった。思わずコンテンツに目を留めて引き込まれるように工夫し、各コンテンツのエッジがきわ立つように制作している。

計画・設計プロセス

・整備の背景

2012年度、大学長からの諮問を受け、「横浜キャンパス向上計画」の検討を開始した。同計画は、「学生支援強化と環境に配慮したキャンパス整備」を主眼とし、2013年度から3か年計画として実施した。その一環として、自学自修環境の整備を目的に横浜キャンパス開校時の1985年にオープンした横浜図書館の全面改修に取組み、2015年3月にリニューアルオープンとなった。

なお横浜キャンパス向上計画においては図書館改修の他に、学生アメニティの向上（キャンパス内に憩いのスペースを拡充）や自律型エネルギーの構築（太陽光発電や雨水・井戸水の「中水」としての有効利用を促進）も進められた。

・整備の目的

授業やゼミ、サークル活動などを大学生生活の中心に据える学生たちに、「図書館を中心にさまざまな体験をしてほしい」「そのためにはどんな図書館が最適なのか」と議論を重ねた。

さまざまな使い方を想定して図書館空間を構築したが、そこでは予想しなかったような使い方がされ、学修における“想定外の活用”、学生同士の刺激が成長を促し、その延長上で講義やゼミにも変革が起こり、学びの伝播がおきることが期待される。また、興味・関心があることだけに一直線に向かうのではなく、幅広い世界に触れること、「本に触れることで“達成できる”実感」が持てることも重視している。

従来型の図書館機能を維持しつつも、そこに身を置くことで「ワクワク」し、新たなアイデアやインスピレーションが創出されるよう、目に見えない雰囲気醸成にも配慮している。

・構想から工事までのプロセス

	構想	計画・設計	工事
3年前	大学長の諮問を受け、2012年5月より、管財部・現横浜管理部において「横浜キャンパス向上計画」として検討	2012年初旬 設備改修計画検討開始 12月 基本計画(案)を学長に答申	
2年前		2013年2月 基本計画理事会承認	2013年8月 家具業者をプロポーザル方式で選定
1年前		2014年1月～3月 改修工事設計	2014年2月 仮設図書館整備着手 7月 改修工事業者決定 8月 仮設図書館への移設 改修工事着手 12月 家具工事契約締結
完成			2015年1月 改修工事竣工 2月 家具工事着手 3月 家具工事竣工、仮設図書館からの図書移設、運用開始

整備後の評価と今後の展望

・利用状況

リニューアルオープン当初、春学期の授業が始まり課題が出始めると学生来館者にPCを積極的に利用した学習が見られるようになり、6月頃からはグループ利用が広がりを見せ、徐々にホワイトボードなどの利用も始まった。試験期にはほぼ満席となり、一時は貸出のPCが出払ってしまいロッカー前で返却待ちが出ることもあった。秋学期はさらに資料を利用しながらの学習や、モニタを利用して授業課題に取り組むグループが目立つようになった。

教員からは、授業内での図書館利用のレクチャー希望が増加し、ワークショップエリアでは春学期57コマ、秋学期23コマの実施要望があり、場所が不足して2階アクティブコモンズでも一部実施するなどの対応を行った。

横浜校舎に1～4年生が在学する国際学部では、春学期末に「卒論説明会」、秋学期末に「卒論発表会」を図書館のワークショップエリアで開催した。従来にはなかった利用形態であり、投影を用いた卒論報告と同時にポスターセッションも行われ、予想外に多くの学生が来館した。図書館が目指したアカデミックな学びの可視化を実現する場ともなった。

また、図書館の読書推進企画として白金キャンパスで開催した「トークイベント」を、アクティブコモンズ空間のICTをフル活用して同時中継する試みを行った。アンケートでは、今後の継続的な実施を期待する声が多く寄せられた。

・整備の評価

評価手法として「利用者数などの定量的調査」「利用者の動態調査などの定性的調査」の2種類を行っている。

入館ゲート統計では、授業期間中は前年比の1.5倍程度の利用状況であった。図書貸出数は前年並みであるため、従来型の図書館利用だけでなく、利用目的が広がったことによる利用増と推察される。

定性的調査に関しては、施設整備3ヶ月後と6ヶ月後に実施。学生は自習、図書閲覧等の従来の図書館利用に加えて、グループでの討議や、グループと個人学修の併用等、当初図書館で想定した新たな使い方も見られるようになった。グループ学習に関しては「1つのホワイトボードを囲んで討議する」だけでなく、「テーブルを囲み別々の学習に励む（お互いに学習の励みとする）」という利用も見られた。自主的に友人に語学を教える学生も現れるなど、新たなコミュニティーが生まれた事例もあった。さらに個人で適度なざわめきに身を置き、家でもなく教室でもない「サードプレイス」として好んで図書館を利用し学習する学生が定着しつつある。

このように多様な空間を提供することで、学生が好みの学習スタイルを選択できるようになったことがわかる。

また、モニタやホワイトボードなどの活用については、他の利用者の利用法を見習いながら自分たちの目的にあった利用をする例が徐々に増加している。

・今後の展望

キャンパスのアカデミックな活動の中心として機能できるよう、学生・教員とも連携しながら、さらに目標に向け整備を進める。

たとえば、横浜キャンパスに在学する国際学部の上級生が図書館内でアカデミックな活動を展開することが、他の学科の1、2年生に知的刺激を与えることが期待される。待つだけでなく、利用法やサービス内容、制度の広報を積極的に行い、学生の利用促進を図る必要がある。教員主導のイベントと連携したり、ゼミや授業単位で学生が図書館を事前・事後学習の場として利用するよう誘導し、その受け皿となる環境を整備していく。

また、図書館内のアクティブスペースにおける①個人利用、②グループ利用、③授業サポート利用の共存をはかり、それぞれ快適に活動するための調整を工夫していくことも課題である。

図書館の強みとしての「空間」「資料」「人的支援」を意識し、それらを活用した利用しやすい図書館を目指すと同時に、読書の推進についても、すべての活動のベースとしての重要性を意識し、取書からイベント実施まであらゆる方法を模索していく必要がある。